

大草谷津田いきものの里 自然観察会

草木の防寒対策は？

武田宏子（千葉市）

日 時：2011年12月18日（日）10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：11名（大人8名、子ども3名）

担当指導員：田井中信子 武田宏子

最低気温1度、最高気温11度と本格的な冬を迎えた12月の第3日曜日、参加者は暖かそうなコートやショールを身にまとめて集まった。全員がリピーターの方々である。私たちはコートを着たり、使い捨てカイロを身につけたり、暖かい室内で過ごしたりして寒さを凌いでいる。では自ら動くことのできない草や木はどうでしょう。寒さがますます厳しくなる今、未熟な小さな葉を開いたらきっと寒さに負けてしまうでしょう。暖かい春がくるまでどんな工夫をして寒さを乗り切るのでしょうか。観察してみましょうと、今日のテーマを投げかけた。

「木は葉っぱを落とす」というAちゃん。木については芽（鱗芽と裸芽）に注目し、草は足元のロゼットを観察し、その工夫をみていくこととした。まず、大草谷津田の森を外側から眺める。緑の葉をつけた木、葉を落として裸になっている木、まだ枯葉の残っている木の混じった木々の冬景色を確認する。常緑樹、落葉樹の葉の違いは？ 冬の過ごし方の違いは？ なぜ落葉するの？ 等の問答をしながら、杉林の観察路へ

緑の葉を受けたシラカシ、ツバキ、ヤツデなどの葉に触れて厚み、つやつや感などを感じもらう。次に足元の落ち葉を拾って比べてみると、「落ち葉は薄いし、ざらざらする」とBちゃん。そこで、常緑樹の葉の特徴、落葉樹の冬の過ごし方について説明する。道々、ケヤキの落枝した枝を拾ってきて、「たくさん芽がついているよ」と子どもたちが積極的である。

「めじろんば」を左に折れ、明るい農道に出たあたりからは、ロゼットが目につく。ここで野草カードをみてもらい、同じロゼット探し。オオバコ、セイヨウタンポポ、ヨモギ等 次々に探しあてた。どれも地面にべたりと広げた葉が、太陽の光を十分に受け、これが冬を越すのに都合の良い形であることが一目瞭然。

次は木々の冬芽の観察。コバノガマズミ、コマユミ、ムラサキシキブ、ツリバナ、モミジイチゴ、シラカシ、アオキ等の芽鱗の重なりや芽のつき方、葉芽、花芽等。何枚もの芽鱗に包まれている芽が多いが、ムラサキシキブの芽は葉だけでできていることに気づく。しかし、木々が高く、細かい部分の観察なので、子どもたちには観察しにくい。

まとめ：日差しの暖かい場所で、担当者が集めてきた木々の芽（オニグルミ、トチノキ、クロモジ、ハナミズキ、コナラ、クヌギ、イヌシデ、ツバキ、ケヤキ…）を鱗芽と裸芽とに分類。

改めて芽の位置、つき方、種類、葉痕等を観察する。ハクモクレンの芽は毛皮のコートを何枚まとっているかカッターで切って調べた。3枚の毛皮をまとい、次に花弁、雄蕊、雌蕊を見分けることができた。木々は、冬芽（休眠芽）という形で冬を過ごし暖かい春を待つ。

参加者の感想：冬の木の過ごし方や、芽についての知識を得た。普段見過ごしてしまうような細かい部分の観察もおもしろい。

